

## 5. 5 ダイバーシティ推進小委員会（旧・男女共同参画小委員会）

旧・男女共同参画小委員会は、引き続き土木界における男女共同参画をはじめとした、多様な人材の活用をめざす取り組みを進めることを目的として、2010年度よりダイバーシティ推進小委員会に名称を変更した。これにともない委員を増強し、2010年度は16名体制で活動を行った。

### (1) 活動目標

各年度の活動目標を、次のように定めて実施した。

#### <2009年度 目標>

「土木学会におけるダイバーシティ（まずは男女共同参画）の実現に向けて、内外の活動を進めよう！」

#### <2010年度 目標>

- (a) 具体的なアクションを打ち出すために、5年後、10年後に目指すビジョンを提示する。
- (b) 男女共同参画に関連する情報の収集・整理を行い、それらのレビューとメッセージの発信を行う。
- (c) 土木学会や会員に向けて、男女共同参画およびダイバーシティの推進を働きかける。

### (2) 活動内容

上記の活動目標を実現することを目的として実施した活動を取りまとめる。

#### ●委員会の開催

2009年度に4回、2010年度に3回の委員会を開催した。

#### ●会長への説明

2010年度会長に文書で（2010年7月16日）、会長に対し面談により（2010年7月27日）、当小委員会の経緯及び活動内容を説明するなど、土木学会の意思決定層の理解の促進を試みた。

#### ●「女子学生のためのキャリアセミナー」実施

2009年度は東京ウィメンズプラザ オープンプラザ事業として、「女子学生のためのキャリアセミナー～技術系・土木系の仕事～」(2009年11月14日開催)を土木技術者女性の会の協力を得て主催した。なお、2010年度は「女子学生のためのキャリアセミナー～土木の仕事の魅力と私たちの働き方2010～」(2010年12月4日、土木技術者女性の会主催)として実施され、土木学会は共催として協力した。

#### ●「女子中高生 夏の学校」出展

男女共同参画学協会連絡会主催の「女子中高生 夏の学校2009」(2009年8月14日)、「女中高生 夏の学校2010」(2010年8月13日)において、パネル展示、模擬実験を実施した。ブースは、土木学会と地盤工学会で共同出展したものであり、土木技術者女性の会も含め、土木系の3つのブースが並ぶものとなった。

なお、土木学会は男女共同参画学協会連絡会にオブザーバ加盟しており、加盟費を当小委員会の活動費から支出している。

#### ●一時保育サービスの実施支援

土木学会全国大会の実行委員会に対し、一時保育サービスの設置及び、毎年の設置のための申し送りの働きかけを行った。利用者数は少ないが、必要なサービスとして継続して実施

されるようになった。

#### ●「ダイバーシティ推進フォーラム」の開催

第1回は「建設分野における女性活躍支援ネットワーク」(2009年5月12日)、第2回は「誰もが働き続けられる業界を目指して」(2010年10月6日)と題して、ダイバーシティ推進フォーラムを開催した。基調講演の後、50名から70名の参加者がグループ討議を行い、ダイバーシティ推進における土木学会、当小委員会への提言をまとめた。

#### ●地方自治体の女性技術職員研修の企画、実施

東京都多摩地区の自治体に勤務する女性技術者の研修の企画、実施に協力した。東京都市町村研修所主催の「平成22年度スポット研修『技術職研修』」(2011年1月14日実施)である。過去2回のダイバーシティ推進フォーラムの実施により得た知見をもとに構築したプログラムを提供し、運営を支援した。

#### ●他学会等との連携

地盤工学会、日本建築学会の男女共同参画担当委員会と、情報交換、共有を行うとともに連携した活動の実施を申し合わせた。またそれぞれの学会と連携していることを、ウェブサイト等を通じて公開している。

##### (a) 地盤工学会

地盤工学会とは、それぞれが主催する催しの共催及び、「女子中高生夏の学校 2010」の共同出展など、昨年度同様の連携を行った。

##### (b) 日本建築学会

日本建築学会については、今年度、双方の委員長、幹事長、幹事団及び日本建築学会の担当職員の同席による情報交換会を実施した。

##### (c) その他

女性土木技術者の任意団体である土木技術者女性の会主催の行事に共催し広報などの支援を行った他、ダイバーシティ推進フォーラム、技術職研修などの実施協力を受けた。

#### (3) 活動成果

当小委員会の活動は、当小委員会のウェブサイトにおいて随時公開する他、雑誌等への寄稿、論文の執筆などにより成果としてまとめられている。また、一般紙、業界紙などでの記事にも取り上げられている。以下に列挙する。

#### ●ウェブサイト

2006年度より設置したウェブサイトでは、当小委員会の活動、活動成果を報告するとともに、土木学会における女性会員の動向や、土木に関連するダイバーシティ推進の取り組みについて継続して発信を続けている。

土木学会 教育企画・人材育成委員会 ダイバーシティ推進小委員会のウェブサイト：

<http://committees.jsce.or.jp/education03/>

#### ●寄稿

山田菊子：第2回土木学会ダイバーシティ推進フォーラム－誰もが働き続けられる業界を目指して－，土木学会誌，土木学会，No.96，No5，2011年5月号。（掲載予定）

岡村美好：リレーレポート 建設業で働く女性たちの現状(25) 第2回土木学会ダイバーシティ推進フォーラム－誰もが働き続けられる業界を目指して－，建設業しんこう，No.421(2011年1月号)，pp.16-19，(財)建設業振興基金，2011。

土木学会ダイバーシティ推進小委員会（編）：トピックス 男女共同参画からダイバーシティの推進へ，土木学会誌 2010年2月号，Vol. 95，No. 2，土木学会，pp.45-52，2010。

岡村美好：土木学会ダイバーシティ推進フォーラム 建設分野における女性活躍支援ネットワーク，土木学

会誌, Vol.94, No.8, pp.52-53, 2009.

岡村美好：リレーレポート 建設業で働く女性達の現状(4) 男女共同参画からダイバーシティの推進へー土木学会における男女共同参画の取り組みー, 建設業しんこう, No.400 (2009年4月号), pp.30-35, (財)建設業振興基金, 2009.

## ●論文

山田菊子, 岡村美好, 日下部治: 土木分野における女性技術者の現状と支援の動向, 工学教育, 日本工学教育協会, 2011年5月号. (掲載予定)

岡村美好, 松本香澄, 山田菊子, 米山賢: 土木学会における男女共同参画の取り組みと今後の課題, 土木学会論文集 H (教育) Vol. 2, 土木学会, pp.126-131, 2010.

## ●関連記事

どぼじょ=土木系女子 現場に輝く/「命や生活 私が守る」/力の差 タフさで何の/採用枠 年々増加/「壁」崩し 学会支援, 朝日新聞, 2010.12.28, 2010.

「どぼじょ」(土木系女子) 増えてます/現場で子ども扱い→今は「姫」/学生「命守る分野」高い関心/ゼネコンも門戸開く/雇用推進へ学会が支援, 朝日新聞, 2010.12.15 (夕刊), 2010.

女性が働きやすい環境を/ダイバーシティフォーラム開く/土木学会, 日刊建設工業新聞, 2010.10.07, 2010.

土木学会/10月6日にダイバーシティ推進フォーラム/誰もが働き続けられる業界テーマに, 日刊建設工業新聞, 2010.09.29, 2010.

土木学会/ダイバーシティの取り組み強化/6日、東京で推進フォーラム, 建設通信新聞, 2010.09.29, 2010.

女子学生のためのキャリアセミナー開催 先輩が語る土木技術者の一日に耳傾ける, Pilastro, 2009年12月号, (社)日本土木工業協会, pp.2-3, 2009.

回覧窓, 日刊建設工業新聞, 2009.12.02, 2009.

女子学生のためのキャリアセミナー, 読売新聞, 2009.11.05, 2009.

女子学生のためのキャリアセミナー, Yomiuri Online, 2009.11.05, 2009.

女子学生向けキャリアセミナーの参加者募集/東京都と土木学会, 建設通信新聞, 2009.10.29, 2009.

女子学生のためのキャリアセミナー/11月14日に都内で, 日刊建設工業新聞, 2009.10.28, p.16, 2009.

技術・土木 女性にPR/東京ウィメンズプラザ 来月キャリアセミ, 日刊工業新聞, 2009.10.16, 2009.

女性達に活躍の場を 土木学会 支援ネットフォーラム開く, 日刊建設工業新聞, 2009.05.13, p.4, 2009.

## (4) まとめ

2009年度、2010年度の活動は、外部からの要請に応えることが中心となった。継続的に実施してきた「女子中高生 夏の学校」「ダイバーシティ推進フォーラム」などの活動が他学会にも注目され、連携の輪が広がっていることを実感している。また、土木学会全国大会における一時保育サービスは、今大会より、当小委員会の働きかけの以前に実施が検討されるなど、土木学会内部でも理解と実践が進んでいる。

一方で、土木分野におけるダイバーシティ推進のビジョンの提示や、関連する情報の収集、整理(2010年度目標(a)、(b))については、取り組みを行う体制は整備したものの成果を提示するまでに至らなかった。男女共同参画をはじめとするダイバーシティ推進に取り組むに当たっての基礎資料であり、次年度以降も取り組む必要があると考えている。